

「私の一步ここから始まる」

水仙福祉会 風の子そだち園

竹内佐奈恵

1. Yさんのプロフィール

風の子そだち園の竹内と申します。よろしく申し上げます。今日は私が担当しているYさんの事例を報告させて頂きたいと思っております。

Yさんは幼少期、水仙福祉会風の子保育園に通っておられ、卒園後地域の小学校、そして地域の中学校へと進学されました。その頃のYさんは、化粧品を売っているお店を見つけると走って入っていき、高額化粧品の箱を無理やりちぎったり、本屋や売店で週刊誌を破いてしまったりし、本人もお母さんも、どちらも余裕のない日々を送っておられました。そんなことが起こる度、弁償せざるをえなくなるのですが、その金額も高くなり、困り果てた挙句、お母さんは地域にある水仙福祉会淡路こども園へ外来として定期的に相談に通われるようになりました。

中学卒業後は水仙福祉会風の子そだち園へ通所されるようになったのですが、そだち園へ来られてからも突然外へ飛び出し、大きな道路を挟んだ店へ信号も見ずに突進していました。そこでも雑誌を破くなど、常に目が離せない状態でした。自動販売機の前に座り込んで、コーヒーを何本も買わないと動こうとせず、スタッフの方も本人の伝えたい事を聞く余裕すらない状態でした。こんな時期が長く続きました。

私が担当した3年前のYさんは、言葉によるコミュニケーションが難しく、喃語で「あっあっ」や「ばっばっ」「おー」と言うぐらいでした。しかし、コミュニケーション手段として、Yさんには独自のサインがたくさんありました。例えば、手を顔の辺りでクルクルと回すと『USJ』のサインだとか、頬をパンパンと叩くと『お化粧』のサインだとか、そういったものが何十とあります。そういったサインの内容を言って欲しがったり、書いて欲しがったりし、そのサインを使ってやり取りするのが主なコミュニケーションとなっています。ただ、そのサインをどう捉えるかによって、Yさんとの関わり方は変わってきます。

2. これまでのYさんへの対応を見直す

サインは昔からあり、これまで、本人が色々なサインを出すと、その内容を言ってもらいたがったり書いてもらいたがったりするので、そのサインはそれを通して職員とのやり取りを楽しんでいるからだろうと、その関わりで喜ぶYさんの姿を見てこちら側はそう捉えていました。そのやり取りとは、例えば、手を顔の辺りでパッと開けると、「マ～リオ～！」と言って欲しがって、スーパーマリオのゲームの音楽を歌いながら、マリオの絵を書いて欲しがったり、他にも、両手を頭に乘せて、「マ～クドナ～ルド、M！」と言って欲しがったりといった様なものです。そんなサインによるやり取りがいくつもありますが、サイン

の内容がなかなか伝わらず、やり取りがうまくいかないと本人は腹を立て、しつこく支援者に迫り、收拾がつかなくなってしまう事もありました。そういった事から、「Yさんの担当になったら、まずサインを早く覚えなければいけない！」というように思われていました。

Yさんは音楽もよく聞いており、以前はいつもカセットデッキを自分の前に置き、気になったフレーズだけを何度も何度も繰り返し巻き戻して聞いていました。その時はスタッフに介入してほしいがらず、スタッフも「Yさんは静かに聞きたいから邪魔されたくないんだ」と解釈をしていました。しかしここ数年の間で、出したサインをただ単に言ってもらいたい、書いてもらいたいというだけではなく、伝えたいこと、わかってもらいたいことがたくさんあるのだという事がわかってきました。

3 . USJ のコピーとYさんの気持ち

私がYさんの担当になったのは、今から3年前の10月でした。最初、私はYさんが行動を通して伝えようとしてくれている事がまったくわからず、わからないから深く関われないし、関係も発展していかない。そんな状態でした。

その頃のYさんはいつも私にハートマークを書かせていました。ハートで埋まったA4の用紙が何枚も何枚もできる毎日でした。時々私自身がその関わりを楽しめるよう、ハートの中に顔を書いてみたり工夫もしてみました。心から楽しくYさんと向き合って関われるというほどまでにはなりません。求められた分だけハートをひたすら書くという、表面上の付き合いだけで毎日過ごしてしまいました。

それから半月ほどたった頃、Yさんは毎日事務所へ行くようになりました。わざわざ2階から1階の事務所まで行き、事務所にあるコピー機の前に座り、USJのパンフレットを私に渡して、「これをコピーして」と要求していました。「これ、何回もコピーしてるやん。今手に持ってるのと同じやつや？それでも同じやつをコピーしてほしいの？」、そうYさんに聞いても、やっぱり同じコピーを要求します。こんなにUSJのコピーを欲しがるといことは、そこに行きたいからなのだろうかと考え、「USJに行きたいの？」と聞いてみました。でも「そうじゃない！コピーがほしいの！！」と言うように、USJのパンフレットを強く私にさし出し、コピーを要求します。なぜ今こんなにコピーがほしいのかと考えた時、コピーができるのが事務所だけだということに気がつきました。なぜ事務所へ行きたいのかを考えると、ようやく答えが見つかりました。

その時私はもう一人別の方も担当しており、同じことばかりさせるYさんよりも、その方と一緒にいる方が私自身楽しかったのです。そのため、Yさんの目から私とその方との関係を見ると、疎外感のようなものがあつたのかもしれない。しかし、私を1Fの事務所へ連れて行きクラスから離しさえすれば、私はもう一人の方と離れてしまうので、Yさんと一対一の関係になります。そうする事で、なんとか私の気をYさんに向けようとしていたのではないかとふと気がつきました。その事に気づいた時、私は涙が出そうになり

ました。あのしつこかったハートマークも、きっと「私の事を見て！」といった思いや、「あなたは私の事をどれくらい真剣に考えてくれてるの?!」と私に訴えかけて、私を試し、わざわざしんどい事を何度も何度もさせてきていたのだと思いました。あんなマークばかり書いて、Yさんだって絶対楽しくはなかったはずです。そして、私はその話を本人にもしました。「Yさん、もしかして、コピーが欲しいんじゃないで、私の気持ちが欲しいんじゃないの?ちゃんと私の事見てよって言うてんの?」、そう尋ねると、Yさんは「うん」と深く頷きました。私はすぐYさんに謝りました。「ごめんね!本当にごめん!」涙を流して私がそう話すと、Yさんはそれ以上コピーを欲しがらなくなり、私の手を引っ張って、「2階の部屋に戻ろう」と伝えてくれました。私は本当に申し訳ないことをしてきたという思いで、謝っても謝りきれないくらいに胸が痛みました。

そしてその事をきっかけに、私はYさんとの向き合い方を180度変える事ができました。彼女の伝えようとしている事を、ちゃんと私にも聞かせて欲しいし、私にたくさんの事を教えて欲しい。そう思うようになり、どんなに理解しがたい行動であっても、彼女の行動ひとつひとつには必ず意味があり、伝えたい何かがあるのだと真剣に考えるようになったのです。そうすると、Yさんも以前していたような言葉遊びの要求や、カセットデッキで同じフレーズばかり巻き戻して聞く事などがなくなってきました。そんな表現ではなく、少しずつ自分の気持ちをわかりやすく伝えてくれるようになってきたのです。

最初は物を持ってくることで、その物を介して自分の気持ちを伝えてくれるようになりました。そして、Yさんが伝えてくれた事に迅速に対応していきました。すると本人も「伝わったらちゃんと叶えてもらえるんだ!」という経験をし、その事を繰り返していくと、どんどんわかりやすくこちらに伝わりやすい表現をしてくれるようになってきました。そして、Yさんは私の書いた文字を指さすことで、自分の気持ちを伝えてくれるようになってきました。

文字を指さすという事なのですが、言葉でのコミュニケーションが難しいYさんが、どのようにして文字を指さし、気持ちを伝えてくれるのか、ここで一度、Yさんと話をしていく時の映像をご覧頂きたいと思います。

今から見ていただく映像を撮影する数日前から、Yさんの表情がすぐれない日が多く、「何か困っているのかな?」と思っていたところ、親御さんとのやりとりを通して、毎年お正月にYさんの家に遊びに来てくれていた大好きな親戚のおじさんが、最近入院されて、次のお正月は遊びに来れないという事実があることがわかりました。

その事実を前提に、Yさんの気持ちを文字にして伝えてもらおうと話しました。

その時の映像をご覧下さい。

4 . 約束の白浜旅行

私は最初、Yさんが本当に字を理解しているのか半信半疑だったのですが、ある出来事がきっかけで、Yさんは本当に字を理解し、字を指さす事でしっかり自分の思いを伝えて

いるのだと確信を持つようになりました。その事件とは3年前の11月中旬、Yさんのお母さんが白浜へ旅行に行かれた事から始まりました。

白浜旅行から帰って来られたお母さんは、Yさんに白浜のお土産を買ってきてくれました。お母さんが旅行に行くことを納得していたのにもかかわらず、その後Yさんは表情が悪くなり、イライラするようになりました。何か納得いかないことがあったのだと感じたので、お母さんから話を聞き、本人とも話をして、原因を知ることができました。お母さんはお土産にパンダのぬいぐるみとアドベンチャーワールドのパンフレットをYさんに渡したそうです。アドベンチャーワールドはYさんの大好きな場所なので、Yさんが喜びと思い、お母さんはそのお土産を選ばれたのですが、Yさんは「私が好きな場所に、お母さんは私を置いて行ってしまった！」と大きなショックを受けてしまったようでした。お母さんは白浜の温泉に行っただけで、アドベンチャーワールドには行かれていないのですが、アドベンチャーワールドのお土産をもらったことで、Yさんが勘違いしているのではないかと思い、本人にその事を確認しました。すると白浜の件がショックだったYさんは、『あーちゃん』『白浜』『謝って』や『あーちゃんの口から聞いたかった』『アドベンチャーワールド』と指さし、残念だった思いや、悔しい思いを伝えてくれました。その日の夕方、お母さんからアドベンチャーワールドには行っていないという事と、白浜の件で勘違いさせてしまった事をYさんに謝ってもらい、「今度の夏休みには白浜へ旅行に行こう！」と約束してもらいました。翌日、Yさんは園に来て『あーちゃん』『夏』『アドベンチャーワールド』『まちがわないで』と指さし、お母さんと夏休みに白浜へ旅行する約束をした事と、それを間違わずに実行してほしいという事を伝えてくれました。

そして次の夏が近づいた頃、お母さんはYさんが『志摩スペイン村へ行きたい』と伝えた事もあって、夏休みの旅行を志摩スペイン村に決めてしまわれました。しかしYさんは、半年前に交わした白浜の約束を覚えていて、『白浜シーサイドホテル』『忘れてない?』『Yさん』『行きたい』と指さし、約束を叶えてほしいと教えてくれました。私が「スペイン村と白浜どっちに行きたいの?」と聞くと、『どっちも』『行きたい』と指さすので、「どっちに先に行きたい?」と聞くとすぐに『白浜』と指さしていました。お母さんとスペイン村の前に白浜へ行けるよう話を進めていると、『白浜アドベンチャー』『きつぷ』『早く』『本当に』『行くぞ』とYさんは指さすようになりました。そして、7月下旬によく念願の白浜旅行が実現したしました。この時をきっかけに、Yさんはどんどん自分の思いを伝えてくれるようになり、また「もっとわかってほしい」「ちゃんと解決してほしい」という思いも強くなっていき、それに伴って、過去の話も教えてくれるようになってきました。

5 . 私も山梨に行きたい!

Yさんには小学生の頃から「メナード化粧品」へのこだわりがあります。“目”を指さしたらそれが『メナード』のサイン。そのサインを出すと、スタッフに「メナード」と言って欲しがったり、書いてほしがったり、またメナード化粧品の物を強く欲しがったりしま

す。メナードと訴えだすと、その渦に飲み込まれていくように、Ｙさんはしつこく「メナード」に執着し、お母さんも私も、他のスタッフも『メナード』のサインが出ると、「あ、またか・・・勘弁してほしい」という気持ちになっていました。しかしそうなってしまうのも、本人が『メナード』を通して伝えたい事を、こちらが理解できていなかったからなのだと、今になっては思います。

メナードの意味は、「メナードはお母さんが使っているから、お母さんの事だ」とか、「いつもキレイにしているお母さんの事」という解釈がこれまで引き継がれてきたものでした。しかし、Ｙさんから『メナード』のサインが出た時にお母さんの話をしても、どうもしっくりこない感じがありました。では、「メナード」の本当の意味とは何なのか。これまでの捉え方から一度離れて、「メナード」の持つ意味を一から考えてみようという事になりました。

まずお母さんに「メナード」の話を聞きとると、お母さんはメナード化粧品を使った事がなく、お母さんの田舎の人達がみんなメナード化粧品を使っているという事がわかりました。お母さんの田舎は山梨県で、Ｙさんは山梨へ帰ると田舎の人の家に行き、メナード化粧品の物を欲しがったそうです。しかし山梨へはＹさんとお母さんとおばあさんの3人で行った事はあるけれども、おばあさんが高齢になられてからは、お母さんが一人でＹさんを山梨に連れて行く自信がなく、Ｙさんが山梨へ帰る事は一度もありませんでした。そういった事から、「『メナード』は山梨の田舎の事なのではないか」と捉えて考え、今までのことを振り返ってみると、確かにお母さんが法事や親戚のお見舞いで田舎に帰るたび、Ｙさんは『メナード』と言ってしつこくなっていました。

山梨へ行きたいかどうか本人に確認すると、Ｙさんは大きくなずきました。そのため、お母さんには何度か「山梨へＹさんも一緒に連れて行ってあげてはどうか」と打診をしたのですが、お母さん自身が気を使ってしんどくなってしまうため難しいとの返答でした。しかしＹさんはいつも「一緒に帰りたい」と思っていたようでした。

今年の5月にお母さんが法事で山梨へ行かれた時も、次の日から『メナード』と激しく訴えてくるようになったのです。そこで「山梨行きたかったって言ってるの？」と聞くと、Ｙさんは『ウン』とはっきりうなずきました。お母さんに「Ｙさんも山梨に行きたかったのだ」という思いを伝えると、お母さんは一緒に行けなかった事を謝ってくださいました。そして、法事のようなかしこまった席ではなく、遊びに行く事ならできそうだと話してくださいました。

お母さんは話の中で、「私は田舎が嫌なんや」とおっしゃられました。というのも、田舎の親戚から、Ｙさんのことを「障害を持った子どもがうちの家に生まれるなんて、信じられない」と言われたり、「この子はわけがわからない」と言われたり、Ｙさんが田舎の家で勝手な行動をしないよう、Ｙさんが来る時にはタンスの引き出しをガムテープで止めてしまうなどの対応をされていたようで、お母さんはそんな田舎の人に対して、悔しくて情けなくて悲しい、そんな思い持たれていたようでした。だからＹさんを連れて山梨へ行く事

は、お母さんにとって精神的にとっても辛い事なのだという事でした。そこで山梨で、お母さんが心を許せる親戚の人たちだけにホテルに遊びに来てもらうことにし、数人で集まる事になりました。

6 . 二人で新幹線に乗って山梨へ！

そして8月末、Yさんは約25年ぶりにお母さんと二人だけで山梨へ行かれました。山梨への道中、Yさんはとても穏やかで、何かにこだわって動けなくなったり、お店に急に飛び込んでしまったり、以前あったような事問題行動は一切なかったそうです。そんな落ち着いたYさんの様子に、田舎の方も驚かれたようです。「Yさん、変わったね！今のYさんとならどこへでも行けるじゃない！」そう親戚の方に言われた事が、お母さんはとても嬉しかったそうです。また、お母さんもYさんと2人だけで旅行できた事で大きな自信をつけられました。今回の旅行はお母さん自身にとっても、田舎に対する複雑な思いを整理することに繋がり、Yさんもそんなお母さんの様子に安心されたように思います。

お母さんとの念願の山梨旅行から帰ってきてからは、驚くほどに「メナード」と言う事がなくなりました。本人にも「山梨を気にしてメナードって言ってたの？」と聞くと、「うん」とうなづいてくれました。しかし、「メナード」の意味をちゃんと理解できなかった期間が長かった分、その間の複雑な心境なども『メナード』には含まれているように思えます。メナードの意味が伝わらないもどかしさから、「伝わらない」「わかってくれていない」という意味で『メナード』という時もあるように思います。また最近では、山梨の事を伝えたい時に「メナード」ではなく、山梨の名産でもある「ぶどう」から、ぶどうジュースの空き缶を持ってきたり、山梨にある富士山から、『富士山』とサインを出す事で、よりわかりやすく伝えてくれるようになっています。

【まとめ】

はじめにもお話したように、Yさんとの関わりは葛藤からのスタートでした。当時の私はYさんの行動の意味がわからず、表面的な関わりをしていました。その関わりは、彼女と本気で向き合っていない自分の姿勢の現れだったと思います。どんなに障害が重くても、言葉を話せなくても、Yさんは心を持った一人の人間であり、本人の意思もあれば、伝えたい思いだってある。理解しがたい行動は、私がきちんと本人と向き合えていなかったから、私にとって理解しがたい行動だっただけで、Yさんにすれば言葉で伝えられない分、どうすれば伝わるのか、解決してもらえるのか、そういった事をその時できる精一杯の方法で訴えていた結果の行動だったのだと今では思えます。それに気づくまでに、私は少し時間がかかってしまいました。

行動の意味を理解するという事は、本人にとってコミュニケーションが取れるようになり、「伝えればわかってくれる」「叶えてくれる」ということにつながり、問題が解決され

やすくなります。また、本人の思いがわかりやすくなる分、本人の楽しめる事を一緒に考えていくこともできます。そういったことから、「伝えればちゃんとわかってくれる」「問題を解決してくれる」「楽しめる事を一緒に考えてくれる」と、本人も安心して充実した生活をおくれる事へとつながっていきます。そして支援者にとっても、行動の意味を理解することで、本人の感情や訴えを理解しやすくなります。私は最初にYさんがとった“同じものをコピーさせる行動”の意味がわかった瞬間、本人との間にあった壁を感じなくなりました。「この人も私も何も変わらない、ちゃんと意思があって、叶えたい思いがあるんだ」と心から感じる事ができました。そうすると、本人がとても近い存在に思え、本人がとても愛しい存在へと変わっていき、そんな愛しい大切な本人のことを、私も一緒に考えたいという思いが強くなり、こちら側が主体性をもって関わられるようになってきました。

次に、行動の意味を理解することで、本人と特定の養育者との間に信頼関係が形成されると共に、人との関係で落ち着いて生活できるようになります。信頼関係が形成される事で、こだわりは減ってきます。こだわらなくても、動作や言葉で要求する事が増えてくるからです。その結果、本人からでた要求をこちら側が理解しやすくなり、その要求に応えやすくなってきます。そうすると、次に本人はこちら側の要求に対しても待てるようになったり、合わせられるようになってきます。この待ったり、合わせたりできるというのは、本人がこちらを“怖い”という存在で捉え、「その人が怖いから合わせる」というものでなく、「その人が好きだから合わせる」という、一定の信頼関係からできるものです。そして、信頼関係を持てる事により、本人の生活が安定していく事につながります。

3つ目に、支援者が本人と家族、地域の人々との媒介役となる事で、本人が地域で充実して暮らせるようになっていきます。本人の訴えが理解されることによって問題行動が減り、周りも本人を受け入れやすくなり、家族とも暮らしやすくなります。家族も本人と安心して様々な場所へ出かけることができ、社会経験の広がりへとつながっていきます。Yさんとお母さんが二人だけで新幹線に乗って山梨へ行けた事は、お母さんの自信に繋がり、お母さんが安心してYさんと生活をおくる事にも繋がり、お母さんが「Yさんと一緒にどこかへ行きたい」、「何かをしたい」と意欲的に思えるようにもなりました。その結果、本人が地域で充実して生活できるようになるのだと思います。

どんなに障害が重くても、言葉が話せなくても、周りの人には理解できない行動をとっていたとしても、みんな同じ人間で、一人ひとりそれぞれに意思があって、心がある。その事をこれからも常に頭におき、私はYさんが行動をもって伝えてくれる事に、一つ一つ心から耳を傾けていきたいと思います。そして、そこから出てきたYさんの自己主張を大切に、YさんがYさんらしく生きていけるような支援をしていきたいと思います。